



繁華街・柳ヶ瀬

(昭和編)

復興から繁栄へ、そして...

明治に誕生し、大正・昭和と発展してきた柳ヶ瀬は、昭和の中頃には全国有数の繁華街となりました。

1. 戦前 将来を見据えて

昭和3年(1928)、金融恐慌の影響で客足が減っていた柳ヶ瀬に8灯式のすずらん灯が取り付けられました。これは全国的にも珍しいものでしたが、そのおかげで各店が夜遅くまで営業するようになり「柳ブラ族」という言葉が生まれました。翌年にはアスファルト舗装工事も始まりました。

昭和5年(1930)には丸物百貨店が誘致されました。地元商店街や商工会議所の大反対に遭いながらも、開店にこぎつけられたのです。オープンしたての頃は連日1万人をこすお客で賑わったということです。



すずらん灯のともる夏の夜

翌6年(1931)には売り場面積を広げ、以前からある百貨店や小売店は影響を受けました。岐阜日日新聞は「商店街はデパートに集まって来る人を引き寄せようという頭になった。今日柳ヶ瀬から丸物を消すことは、一般市民の望まないところだろう」と記しています。

昭和8年(1933)には遊技場、映画館・飲食店が激増。柳ヶ瀬は繁華街の様相を呈してきました。しかし昭和12年(1937)に日中戦争が始まり、一時的には軍需景気があったものの、生活物資の配給が徐々に厳しくなっていました。

2. 戦後 復興を支えたもの

昭和20年(1945)7月9日の空襲で、木造家屋がほとんどであった岐阜の町は跡形もなく焼失しました。半世紀にわたって築き上げられた柳ヶ瀬の街もコンクリートの建物の外壁だけが残る瓦礫の街と化しました。

終戦直後から、開市が人々の渴きをいやしていました。一方、丸物百貨店は応急修理して配給所とされ、日用品の配給業務と衣料・日用雑貨を仕入れて販売しました。



戦後の芝居小屋・柳ヶ瀬座

9月には、芝居小屋の柳ヶ瀬座、演技座、豊富座がバラック掛けで建ち、復興の先駆けとなりました。その後、衆楽館も営業開始。徐々に開市は下火となり、代わって商店街が作られていきました。12月の新聞には、「空き腹でも大繁盛、早くも娯楽の別天地」なる興業復活をたたえる記事が掲載されました。

昭和21年(1946)、丸物百貨店は物々交換所をオープン。初日から盛況で、「1日に柳ヶ瀬に落ちる金は20万円以上」と言われました。映画館、劇場は10館に増え、「観客数は1日2000〜3000人を下らず」と報じています。

昭和22年(1947)には「柳ヶ瀬祭り」が開催され、柳ヶ瀬の復興をアピールしました。25年頃にはすつ



西から見た柳ヶ瀬・昭和28年

かり元の姿になり、商店は朝は8、9時から夜10時頃まで営業。飲食店も11時頃まで店を開けなくなりまし



岐阜劇場と大型看板を見る人

このように、焼け残った映画館をいち早く再開させ娯楽に飢えていた人々に潤いを与えたことが、戦後の柳ヶ瀬の魅力となり人々を引きつけました。また丸物百貨店が商店街の核となり「物も心も充たされる街」となったからこそ、わずか数年で飛躍的な復興がなされたのです。

3. 昭和30〜40年代の柳ヶ瀬

昭和30年代(1955)に入ると「もう戦後ではない」ということばが聞かれるようになり、高度成長の時代に突入していきます。

「昭和30年代初めの柳ヶ瀬は、最も岐阜市民に愛され親しまれた繁華街で、とても賑わった盛り場でした。12の映画館と丸物百貨店を中心に小売店が揃い、休日ともなれば、娯楽を求めて繰り出した市民や近郊からの老若男女で、柳ヶ瀬通り・日ノ出町通り・劇場通りでは肩が擦れ合い、前の人を追い越すのが容易ではない混雑ぶりでした。12の映画館では立ち見は当たり前、満員のお客さまで場内に入る扉がふくらむほどでした。当時1館の座席数400〜1000席、



昭和36年の劇場通り

岐阜劇場は15000席で、1日の最高入場者数は5000人でした。(40年代初めまで映画事業に携わった藤垣司朗さんの話)

アーケード・看板・照明・店頭装飾なども整備され、パチンコ・バー・キャバレー・カメラ・時計...など「見る街・買う街・食べる街」として全



クリスマス商戦・昭和41年

てが揃う盛り場を構成していました。

またこの頃の子供にとっては「柳ヶ瀬丸物」であり、屋上のミニ遊園地や遊技場のスマートボールで遊んだり、食堂でオムライスを食べるのが最高の楽しみでした。女性達も、きれいな服に着替えて買い物に行きました。

このように、柳ヶ瀬はあらゆる年代のニーズに応え、誰もが気楽に遊べる娯楽の街でした。そのため、あ

らゆる階層の人が集まりました。県内はもちろん、愛知県などの県外客も多く、その名は全国に知られたほどでした。

4. その後の柳ヶ瀬

しかし、「一家に一台カラーテレビ」の時代に入り、映画を見る人数も減少していきました。

また、社会の急速な普及、市中心部の人口減少、柳ヶ瀬地区の駐車問題などにより、徐々に繁華街・柳ヶ瀬に影がさし始めました。

昭和52年(1977)丸物百貨店が岐阜近鉄百貨店と商号変更をし、岐阜劇場の跡地に岐阜高島屋がオープン。しかし時代の波には勝てず、平成11年(1999)、近鉄百貨店が閉鎖し、昔の柳ヶ瀬の面影を徐々に失っていきました。

この文章は、「岐阜市史・史料編」「柳ヶ瀬百年史」「ふるさと岐阜の20世紀」などをとくに、津田裕子がまとめました。

岐阜市歴史博物館ボランティア
「お話・岐阜の歴史サークル」
代表 後藤 征夫
http://book.geocities.jp/
gifuuekisi/ekistop.htm
TEL058-231-6726